

和顔愛語

寺報

令和7年7月号



「三大蔵」がユネスコに登録

令

和7年4月17日、ユネスコの「世界の記憶」に大本山増上寺が所蔵する「三大蔵」が登録されました。4月17日といえ

ば江戸幕府初代將軍の徳川家康が逝去した日。家康が江戸に来てから、増上寺を菩提寺と定めたおかげで、同寺は関東有数の寺院となつていきます。家康は増上寺のために様々な寄進を行い、その一つに「三大蔵」があります。三大蔵とは三つの大蔵經のことで、大蔵經とはお釈迦様が説いた全てのお經の総称です。お經はお釈迦様の言葉で、弟子達によつて伝えられたもの。これがシルクロードを通過して中国にもたらされ、漢字に翻訳されました。さらに、多くの人に広まるよう巻物や本にされ、日本に輸入されます。

日本に仏教が伝わったのは552年といわれますが、三蔵法師の名で有名な玄奘がインドに旅立ったのはその後のことです。つまりインド仏教の全てが一举に中国に伝わったのではなく、何百年にも渡つて徐々に輸入されたの

です。そのため中国では時代時代に大蔵經が作成されました。また中国から仏教が伝わった朝鮮半島でも大蔵經が作られます。増上寺の「三大蔵」は中国の宋と元の時代、そして朝鮮半島で高麗王朝時代に作られた三つの大蔵經のことです。

これらの大蔵經は海を渡つて日本に伝えられ、国内で写されたり、木版印刷で増刷され、各地の寺院で保存されました。家康はそれらを収集して増上寺に寄進したので、お經は僧侶が勉強する教科書でもあり、浄土宗では經典研究が盛んに行われるようになりました。そして、三大蔵は大切に保管され、令和の世にまで伝えられました。

このような三大蔵が「世界の記憶」に登録されたことはこれまで仏教に関わってきた先人の積み重ねが、世界に評価されたということとです。これからも私達一人ひとりが仏様を大切にすることで、貴重な三大蔵を未来へと繋いでいきましょう。

生活の中にある

仏教の言葉

⑦

私たちが日常で使う言葉には、仏教に由来する言葉が多くあります。なかには、仏教ではまったく意味が異なるものも。この「コーナー」では、そんな言葉を紹介していきます。

冗談

古来、日本では声に出した言葉が不思議な力を持つという、「言霊」という考えが信じられてきました。本人は何の気なしに言った言葉でも、言われた人の頭の片隅に残ることもあります。そしてその言葉によって、行動が大きく変化するということが大いにありえるのです。軽い冗談のつもりがめぐりめぐって、大変なことになってしまった経験がある方もいるのではないのでしょうか。

この「冗談」は仏教に由来する言葉といわれます。仏教においては、「仏道修行に関係ない無用の対話」のことを指して使われます。

仏教では、「無意味なおしゃべり」は、苦しみの原因となりうる心や言葉、身体によって引き起こされる10の悪事（十悪）の一つとして、「ウソをつくこと」や「悪口をいう」ことなどともいわれています。現在の使われ方は、「無用の対話」の部分だけがクローズアップされた結果生じたといわれます。



冗談によって場を和ませたり、人を楽しませるのはよいことです。しかし言う時や場所などをきちんとわきまえて、「冗談」になっってしまったくないようにしたいですね。

分別

「常識的な経験に基づいた判断」など、私たちの日常においてよい意味で使われることの多い「分別」という言葉。仏教でも同様の意味で使われますが、実はことばに対する捉え方がまったく異なります。

「ものごとを経験や主観によって判断すること」は、一見するとよいことのようにも思えますが、言い換えれば自分の感情や思いによって判断しているともいえます。

仏教では、これを「執着」であるとし、この執着によって正しく物事を見ることができない状態を「妄分別」「虚妄分別」と呼んで否定しています。

反対に執着を離れた仏さまが、主観にとらわれず、真理に即し、深い智慧によってありのままに事が見極めることを「無分別」といいます。

意外に思った方もいるはず。私たちは「無分別」を常識的な見方ができていない状態としますが、仏教語としては偏見のない、常識を超越した仏の判断とします。

ものごとの「分別」をつけることは大切ですが、それが自分の感情や思い込みによる自分勝手な判断になっていないか、気をつけたいですね。

伝えたい言葉 (19)

はじめには我が身のほ
どを信じ、
後には仏の願を信ずる
なり

〈現代語訳〉

まず初めにわが身のほどを信
じ、後に阿弥陀仏の本願を信じ
るのです。

浄土宗では「三心」という三
つの心を大切にします。この三
つの心を用意して念仏をとなえ
ると、阿弥陀仏の極楽浄土に往生
することができます。

三心は『観無量寿経』とい
うお経に説かれるもので、①
「至誠心」②「深心」③「廻
向発願心」の三つの心のこと
です。今回は三心のうち「深心」
を紹介します。

深心とは深く信じる心を意味
します。ここでポイントとなる

のは何を信じるのかということ。
浄土宗では①自分の身のほどと
②阿弥陀様の本願の二つを深く
信じましょう、といます。

①の自分の身のほどを信じる
というのは、自分が凡夫である
ことを受け止めていくというこ
とです。凡夫というのは「普
通の人」ということ。ところ
で、普通の人というのはどうい
う人でしょうか。人間には善い
人や悪い人がいます。聖人君子
とよばれるような徳が高く、悪
いことを全くしない人も稀にい
ることでしょう。けれども多く
の人は、条件によって善いこと
をすることもあれば、悪いこと

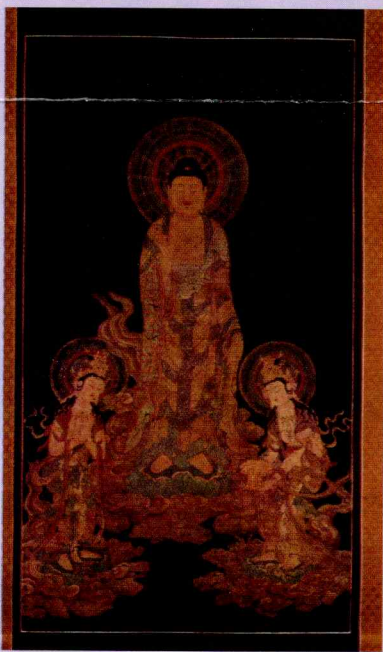
をすることもあります。自分の
体調や気分が良ければ、電車で
座っている時に、怪我をした人
が目の前に来たら席を譲ること
でしょう。けれども自分の体調
が悪く、またストレスを抱えて
いるとそれができない。大好き
な人には優しい言葉をかけても、
嫌いな人には優しくできない。

普通の人には条件によって善くも
なり悪くもなるものです。法然
上人はそういう私達を弱い存在、
【凡夫】ととらえます。

私達は誰もがそういった凡夫
です。悪い条件が重なれば、人
を大きく傷つけたり、取り返し
のつかない過ちを犯すかもしれ

ません。それを認めましょう、
受け入れましょうというのが①
の自分の身のほどを信じるとい
うことです。

仏教は悪いことをせず、善い
ことをして、自分の心を清めて
悟りの境地を目指します。けれ
ども弱い私は悪いことをしてし
まう。だから法然上人は②阿弥
陀様の本願を信じましょうと、
私達に勧めています。阿弥陀様
は、特別な修行のできない普通
の人、時には悪いことをしてし
まう弱い人をどうにか助けよう
という願いをもった仏様です。
それは弱い私達のためにいる仏
様ともいえます。自分が普通の
人であると受け止めれば、頼る
べきは阿弥陀様しかいない。こ
の二つを受け取ることが深く信
じる心である「深心」です。ま
ずは自分自身を見つめ直せば、
きつと弱さを受け入れてくれる
阿弥陀様に対する思いが芽生え
てくることでしょう。



阿弥陀三尊来迎図

西方にある極楽浄土で教えを説く阿弥陀如
来と脇侍の観音菩薩(右)、勢至菩薩(左)。
釈尊の教えが消滅し、修行の結果とされる悟
りも得られない世の中・平安末期に、この阿
弥陀如来を信仰することによって極楽往生
がかなうと信じる浄土信仰が隆盛をきわめ
た。

©慶應義塾ミュージアム・コモンズ所蔵

Q&Aですぐわかる! なるほど浄土宗

20

身近な仏教の疑問をQ & A
形式で説明します!

——お通夜とお葬式はどのような
違うのでしょうか。

——人が亡くなると色々な儀式が
あります。伝統的には枕経、通
夜、葬儀式（お葬式）、還骨法要
初七日、四十九日などたくさん
の法要を行なって供養を行うとと
もに、大切な人を失った気持ちを
少しづつ整理していきます。今で
もこの全てを行うことが理想です
が、さまざまな事情で省略される
こともしばしばです。



現代では亡く
なった方の供養
としては通夜と
葬儀式が広く行
われています。

お通夜は火
葬される前
の最後の夜
に行われる
儀式です。
通夜は「夜
通し」の意
味で、遺族
などが集い



故人との最後の時間を過ごします。
その時に僧侶が行う法要を通夜と
言っていますが、ここでは故人と
仏様とにご縁を結んでもらい戒名
を授けます。

通夜の翌日には故人様を極楽に
送り届けるための葬儀式を行いま
す。引導というものを渡して、亡
くなった方を仏道に引き入れ、悟
りの世界へと導いていきます。葬
儀式を勤める僧侶を導師と呼びま
すが、それはこの役目を担うから
です。

お通夜とお葬式に参列している
と、何かよく分からないお経を唱
えているように感じるかもしれま
せんが、人を弔うとき僧侶はそれ
ぞれ意味のある儀式をしています。

住職あいさつ

本年も7月、小笠原諸島
の清見寺にてお施餓鬼法
要を行います。現在でも
船で24時間かかりますが、
昔は倍の時間をかけ、台
風が来れば数週間戻れな
いこともありました。そん
な中でも祖父と叔父は(当
時)欠かさず参拝を続け
ており、その信仰心には頭
が下がる思いです。

物理の教師だった叔父か
らは、仏教を多角的な視
点で学ばせていただき、そ
の教えはいまも私の法話の
礎となっています。
亡き人の思いは、私達が
大切に思い続けることで生
き続けます。これからもご
先祖を思い、日々を丁寧に
過ごしていきたいでしょう。

私たちの宗旨

名称：浄土宗
宗祖：法然上人（1133-1212）
開宗：承安5年（1175）
本尊：阿弥陀如来
教え：阿弥陀仏の平等のお慈悲を信じ
「南無阿弥陀仏」とみ名を称えて、お
浄土に生まれることを願う信仰です。

普照山 正定寺

■所在地
〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2
■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

紫金山 静蓮寺

■所在地
〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21
■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

母沖山 清見寺

■所在地
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122